

# (特非) 岐阜環境カウンセラー協議会 会報

Vol.30 2024年7月20日発行



この美しい自然を守ることが、**人類を救う!!**

梅雨の真ただ中から、連日、真夏日のオンパレードでしたが、ほぼ、例年どおり梅雨も明け、これから夏本番です。その暑さとともに、コロナも第11波とか、先行き、予断は許しがたい状況ですが、十分、ご自愛ください。懸念は、数え切れませんが、同時多発中の世界の異常気象とともに、季節のさくらんぼ、シャインマスカットなどの生育不良は、温暖化進行の現実問題となってきているようです。手遅れ感さえ、見え隠れしますが、一層、率先垂範に努めましょう。

会報 Vol.30 号をお届けします。

## 目次・概要

ページ

- **巻頭言** (特非) 岐阜環境カウンセラー協議会 理事長 梶田 弘一 2  
想いはおなじ・・・
- **「(特非) 環境カウンセラー全国連合会」へ再加入手続きを済ませました。** 3  
先の通常総会での議決を受け、全国連合会への再加入手続きを済ませました。
- **「うちエコ診断実施機関」認定に係る応募の件** 3  
うちエコ診断士を受け入れる素地として、とりあえず、うちエコ診断実施機関認定の応募を行います。
- **「第20回通常総会」開催報告** 4  
実出席15名で開催され、懸案の「全国連合会再加入」などが、議決されました。
- **特集～地域経済循環分析について、勉強して見ませんか？～** 6  
地域循環共生圏づくりを進めるツールとして、「地域経済循環分析」が欠かせません。
- **会員訪問** 8  
会員各位の活動状況を紹介するコーナーの第三弾は、丸山晴男さんです。
- **編集後記** 10

## ● 巻頭言

(特非) 岐阜環境カウンセラー協議会 理事長 梶田 弘一

想いは同じ・・・環境カウンセラー認知度アップ!!

この1年、会員みなさまの気持ちを何とかざわつかせながら、議論を進めてきました「全国連合会」への再加入問題も、この第20回通常総会においてみなさまの理解が得られ、無事、手続きも終わることができました。ご協力に感謝申し上げます。

この議論を通じて、連合会の代表理事をはじめ、幹部の方々と、幾度となく意見を交わしましたが、その都度、連合会から話されたことは、「環境省と話し合いをする時、全国のカウンセラーを代表していることを意識せざるを得ない。」でした。そのことが、連合会として「会員増を図る」最大の理由とのことでもありました。これは、私たちが「岐阜環境カウンセラー協議会」を組織していることと同じであると思います。「環境カウンセラー登録制度」が設けられて28年、時代を経たことによって、その意義を理解する人たちが少なくなっており、「環境カウンセラーの認知度」向上が、われわれ及び社会にとって、喫緊の課題であることを、連合会とともに意識を共有した感があります。

奇しくも共有できた意識を、それぞれの立場で行動に移す時期が来ました。小生も、当協議会を預かって4年経過し、見えてきた課題も多く、その中でも前述の「環境カウンセラーの認知度が低い。」については、行政当局と接した時、「環境カウンセラーのこと、よくわかりません。当部へ配属は初めてです。」といった状況を多く感じました。環境本省においても同じようなことのようにです。

これらの状況は、時代の流れとも云え、「われわれ環境カウンセラーの出番、大いに有り」とも云えますが、その出番を、ただ、手をこまねいて待っているだけでは、「認知度のない、今、ことが成就する。」見込みはありませんね。連合会として、環境本省に働きかけ、地域協議会として地方自治体、企業・団体へ、環境カウンセラーそれぞれは、その活動を「環境カウンセラーとして、意識し、存在を見える化する」など、それぞれの役割を適格に果たしていく必要があります。

相手から、「当てにされる存在となる」ことが先決ですが、そのためには、まず、一緒に何かやることが重要です。その何かとは、最近、当協議会が取り組んでいる「地域循環共生圏促進事業」のようなものに取り組むことや、フェアのブース展示を他団体・行政等と協働出展するなど、その取り組みを通じて、お互いの考え方等が共有できることなどです。

いずれにしても、環境カウンセラーになった原点は「皆、同じ思い」だったと思います。その時の想いと現実がどうなのか、多少の違いはあっても、それぞれギャップ（問題点）を感じられていることと思います。この問題を少しでも改善することが、後に続く後継者を育てることになるはずで

す。今を生きるわれわれの責務として、後継者を育てるため、「やりがいのある制度」を維持発展するべく、原点に還って、それぞれが役割を果たしていけたらと思います。



## ●「（特非）環境カウンセラー全国連合会」へ再加入手続きを済ませました。

昨年度、1年を要してみなさまにご検討いただき、今通常総会で議決されました「（特非）環境カウンセラー全国連合会」再加入について、6月18日、入会申込書を提出し、同時に入会金、年会費を納入して、入会手続きを済ませました。早速、連合会より6月29日開催の通常総会へ参加案内、総会での発言機会を頂戴し、挨拶させていただきました。

今回、新たに加入したのは当協議会のほか、（特非）奈良環境カウンセラー協会、高知県環境カウンセラー協会であった旨、報告も聞いております。続いて、会員増が図られることを期待したいと思います。

また、これら一連の流れとは別に、「全国連合会」が、全国事務局の指定管理者を継続受託した旨も報告され、少しずつ、環境カウンセラーのための全国連合会に近づきつつあることが付言されました。

そして、われわれ地方団体も加入したことによる連合会との日常応答も徐々に密になってきており、過日、連合会より地方自治体に対する「環境カウンセラーの広報活動」協力依頼が、ポスター等の資料配布とともにあり、理事会メンバーにより対応中です。これら、対応を通じて行政との接点も徐々に増加し、今後の活動に有益になるものと思われ、期待できます。

活動実態については、この後、実績報告により、公表させていただきます。



## ●「うちエコ診断実施機関」認定に係る応募の件

今回、通常総会において、「うちエコ診断実施機関」認定に係る応募について、一応、出席者の賛意を得たと理解しておりますが、「全会一致」で無かったことも事実でありました。これは、その後の理事会でも「事前の周知が十分で無かった」との認識で一致しましたので、今号にて、少し、補足説明させていただきたいと思います。

「うちエコ診断」とは、環境省の「うちエコ診断ソフト」を活用して、各家庭の光熱費や二酸化炭素排出量を「見える化」し、家庭における地球温暖化対策を各家庭の住まい方やライフスタイルに合わせ、適切にアドバイスや提案を行う環境省の公的制度です。

この制度の原動力になるのが、「うちエコ診断士」で、現在、岐阜県下の有資格者は15名ほどです。しかし、現状、この有資格者が活かされておらず、これら「うちエコ診断士」が、露頭に迷っていると云っても過言ではありません。

この診断士が露頭に迷う最大の理由が、「診断士は、いずれかの実施機関に所属しなければ、診断業務は行えず、診断ソフトの入手、利用、運営事務局 URL へのアクセスなどできない。」ことによります。従前、この実施機関を岐阜県地球温暖化防止活動推進センターが受諾していましたが、如何なる理由かは不明ですが、返上されており、現在、県内に実施機関が不在となっています。この事態を受けて、「環境保全活動の推進」を目的とする当協議会が、「うちエコ診断士の受け皿」となることが、社会の要請であり、必然性であると判断したことによります。

尚、現在までの「家庭エコ診断制度運営事務局（（一社）地球温暖化防止全国ネット）」との下打ち合わせにより、①当団体が申請資格を有すること、②団体としての活動実績は問わないこと、③活動ノルマは問わないことなどを確認しており、今後、実務面で必要な対応は診断士の判断により運営していくこととなります。

## ●「第20回通常総会」開催報告

令和6年6月8日（土）13時30分から、ハートフルスクエアG 研修室 30において、第20回通常総会が開催されました。その状況を報告いたします。

定刻の13時30分、司会者より委任状を含め、開会に必要な過半数を満たす総会員数24名のうち18名（実出席15名）が出席である旨報告され、開会が宣せられました。

つづいて、理事長より、総会出席に対する謝辞及び今年度、新たに入会した4名の仲間が増えたこと、その新しい仲間の紹介などがあり、この1年かけて検討してきた「全国連合会への再加入問題」の結論を得る重要な総会である旨宣せられ、開会しました。その後、議長選任等所定の手続きを経て、議事が進められました。



総会風景

議事は、次ページ表（議事進行）に示す第1号議案・2023年度事業報告の件～第5号議案・2024年度 理事・監事の件が、順次、上程され、それぞれ理事長の説明、質問、補足説明が行われ、質疑応答のうち、各号議案ごとに採決、賛成多数で承認されました。

2023年度事業報告に関する質疑では、会員への情報提供充実に関する意見、借入金の理由に関する質問があり、情報提供については、ホームページに「環境カウンセラーの広場」を設け、双方向の情報が行き交うことができるよう改善する旨2024年度事業計画と併せて説明、借入金については助成金入金までの現金運用上のこととして説明、了承されました。

第3号議案の（特非）環境カウンセラー全国連合会再加入の件は、この1年の意見交換、アンケート実施等を経た理事会（案）として、「正会員として入会する」ことを示し、質疑では、入会によるメリット、入会後のマンパワー、財政的な負担等への懸念も示されたが、マンパワーについてはそれぞれの立場でできることを協力しつつ、対応すること、財政面では健全財政を維持し、対応することが理事長から示され、了承されました。

つづく、第4号議案「うちエコ診断実施機関応募」の件については、県内に存在する「うちエコ診断士15名」の受け皿となるべく、県内唯一の実施機関として応募する旨の提案で、質疑では、実施機関を受諾することで役務負担が増加するのではとの不安も示されたが、当面、実務の「診断業務」を即座に行う状況にないこと、具体的診断業務には「うちエコ診断士」が携わることで影響は皆無であることが説明された。

第5号議案の2024年度 理事・監事の件及び報告事業会員の状況については、特に、質疑は無かったが、前年度までの理事4名体制を7名体制とした理由は、「先の全国連合会再加入」に関連した意見交換会等での意見を参考に地域の広さに対応するため、「地域責任者」的な配置としたことが付言された。

以上により、16時00分、本日の議事を終了し、議長は今後の会員の協力を要請して閉会を宣し、降壇した。続いて、理事長より長時間の議論に謝辞が述べられ、第20回通常総会（2024年度）は、無事、終了しました。

審議事項

<p>第1号議案 2023年度事業報告の件</p>	<p>(1) 2023年度事業報告 ● 2023年度 事業報告書 (案)</p> <p>(2) 2023年度収支決算報告 ● 2023年度 活動計算書 (案) ● 財務諸表の注記 (2023年度)</p> <p>(3) 2024年3月31日現在の財産目録、貸借対照表 ● 2023年度 特定非営利活動に係る事業会計貸借対照表 (案) ● 2023年度 財産目録 (案)</p> <p>(4) 2023年度監査報告 ● 監査報告書</p>
<p>第2号議案： 2024年度事業計画の件</p>	<p>(1) 2024年度事業計画 (案) ● 2024年度事業計画書 (案)</p> <p>(2) 2024年度特定非営利活動予算 (案) ● 2024年度特定非営利活動予算書 (案)</p>
<p>第3号議案： (特非)環境カウンセラー 全国連合会再加入の件</p>	<p>(特非)環境カウンセラー全国連合会再加入 (案) ● (特非)環境カウンセラー全国連合会再加入 (案)</p>
<p>第4号議案： うちエコ診断実施機関応募の件</p>	<p>うちエコ診断実施機関応募 (案) ● うちエコ診断実施機関応募 (案)</p>
<p>第5号議案： 2024年度 理事・監事の件</p>	<p>2024年度 理事・監事候補 (案) ● 2024年度 理事・監事候補 (案)</p>



有志による総会後の懇親会

● 特集～地域経済循環分析について、勉強して見ませんか？～

「地域経済循環分析」は、地域にお金を呼び込み、お金の漏れを防いで住民所得を向上させる取組の一環として、地域を定量的に分析する手法を、環境省が開発したもので、2018年環境白書に掲げた「地域循環共生圏」の考え方にも受け継がれており、地域循環共生圏の根幹を成す重要なツールです。

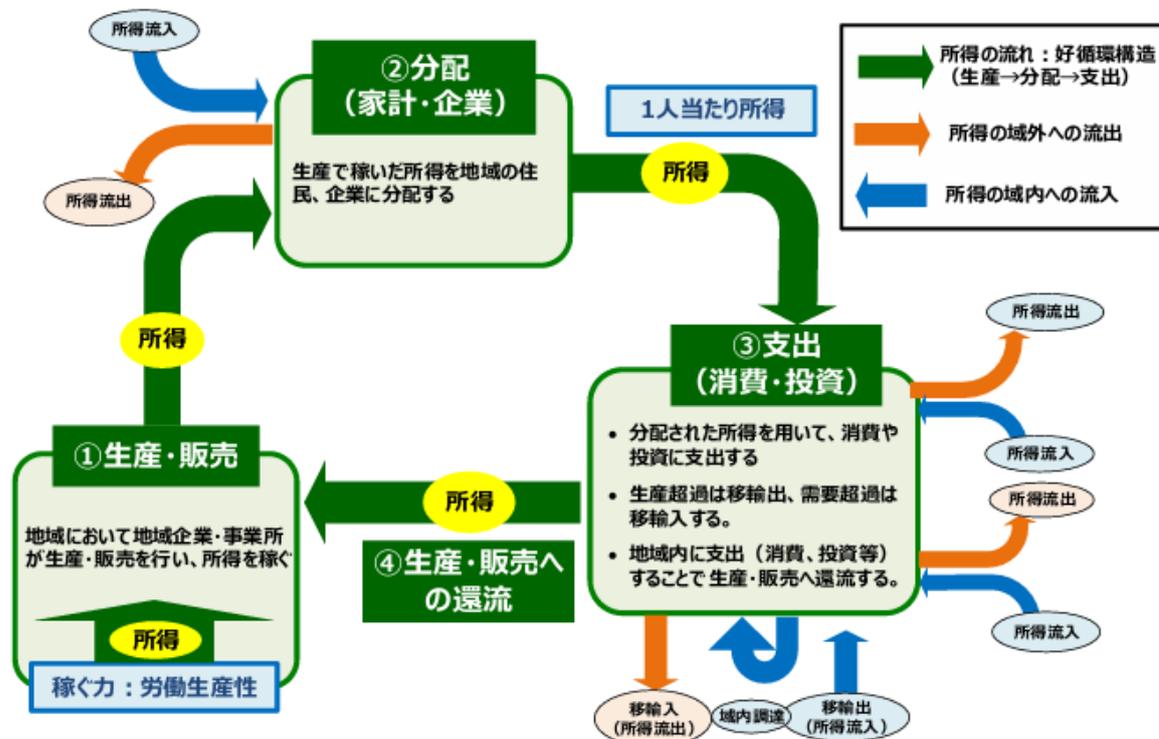


図 3-1 地域経済循環構造

令和 6 年 3 月環境省発行「地域経済循環分析～共通手引き詳細編（副読本）～」より

一般的に、地域の中で回っているお金は、域外に漏れ出たり、逆に域内へ流れ込んだりしていますが、漏れの多い地域は生産への還流が少なくなるため、稼ぐ力が弱まり、結果的に住民所得向上も困難になり、地域経済・社会が縮小する懸念も生じます。この地域におけるお金の流れを顕在化して、強み、弱み、課題を見える化するものが、「地域経済循環分析」で、具体的には、「地域企業がお金を稼ぐ→住民が所得として受け取る→受け取ったお金で消費、投資する→地域企業が消費、投資に対応する…」と、地域の中でお金が循環する構造の中で、最終的には住民所得が向上する地域経済を「数値で見える化」する手法です。

その「見える化」は、極めてシンプルで、地域経済循環分析システム（地域経済循環分析～各年版地域経済循環分析自動作成ツール手引き基本編（操作マニュアル）～令和 6 年 3 月環境省）を、起動し、分析対象の市区町村を選択するだけで、地域経済循環分析が自動的に資料（PPT）を作成します。

この「自動作成ツール」で利用するデータは、GDP でお馴染みの国民経済計算をはじめ、産業連関表、国勢調査など国が公的に調査している基幹統計であり、政府をはじめ、全国の自治体の政策決定の根拠となっているものです。

※ このページ、令和 6 年 3 月環境省発行「地域経済循環分析～共通手引き詳細編（副読本）～」より、引用

※ 同上を含む「地域循環共生圏」に係る資料は、次の手順で環境省ホームページを参照してください。

環境省 → 政策 → 地域脱炭素 → 地域循環共生圏 → まなぶ → 地域経済循環分析

文責：梶田弘一

# 参考～ツール利用手順～

## 3. 波及効果分析ツールの使い方

### 3-1 波及効果分析ツールの利用の手順

#### (1) ツールの起動と分析対象地域の設定

##### STEP1: ツールを起動

**1** 経済波及効果分析ファイルの作成を開始  
「STEP2:市区町村を設定」画面へ

**ツール利用時の留意事項**

- 全てのExcel、PPTファイルを開いてから、本ツールを起動してください
- 本ツールを起動した後、「マクロが有効になりますか」というメッセージが表示される場合は、「有効」を選択してください

注1: クリックすると手引き書(PDF)をダウンロードします

##### STEP2: 市区町村を設定

**2** 地方を選択

**3** 都道府県を選択

**4** 市区町村を選択  
※複数市区町村の選択も可能

**5** 地域名称を入力  
※ここで入力した名称を、PPTファイルでは分析対象地域のラベルとして出力します

**6** 施設等の設定を実行  
「STEP3:検索フォルダを選択」画面へ

注2: 第一の市区町村だけでなく、複数市区町村の選択が可能です(※順番をまたいで選択可)

注3: 選択した市区町村が一覧表に入っているかを確認してください

##### STEP3: 作業フォルダを選択

**7** OKボタンをクリック

**8** 作成するPPTファイルの保存場所を指定  
※ファイルを保存したいフォルダを選択します

**9** 保存ボタンをクリック  
「STEP4:処理中」画面へ

##### STEP4: 処理中

PPTファイルが起動し、表紙から順番に資料の自動作成が進みます  
※分析資料作成中は、PPTファイルを操作しないでください

最後まで作成終了後、「STEP5:資料作成終了」画面へ

##### STEP5: 資料作成終了

**10** OKボタンをクリック  
※ツールの利用を終了する場合は「トップ画面」の終了ボタンをクリックします

## ● 会員訪問

今回は、社会の方が、先に、反応した丸山晴男さんを紹介します。というより、会員諸氏の方がよくご存じのことと思いますが、私たちの仲間入り以前から、自費でエネルギー環境や気象を研究するため、気象台、研究所などを設置し、活動してこられたことは有名です。



**なまえ 丸山 晴男 さん 66 歳 市民部門 2003 年登録**  
岐阜県恵那市在住

昭和 57 年 4 月 岐阜県内で教職に、以来、平成 30 年 3 月まで  
平成 15 年 4 月 環境カウンセラー登録

同時期、私設の恵那エネルギー環境研究所、恵那  
ライブ気象台を設置、エネルギー環境や工学教育の  
研究・実践・講座・イベントなどを続ける。

現在、県立中津川工業高等学校の電子機械科常勤講師、足利大学  
工学部非常勤講師の職にあるほか、経験した教職、実践研究、社会  
教育を集大成した「人生は化学反応・化学変化」(幻冬舎)と、題す  
る単行本を出版、本年 4 月には、中日新聞コラム欄「この人」に取り上げ  
られました。

“久しぶりです。最近はどうですか？”と、お聞きする前に、インタビュアー到着を待っていた丸山さんから、恵那ライブ気象台、恵那エネルギー環境研究所施設（太陽光発電、風力発電、太陽熱）について、立て板に水のごとく、説明されましたが、事情をよく呑み込めていない小生には、にわかには理解できず、このあと、少しずつ、状況がわかってきたといったところでした。

(このあと、室内へ案内していただき、インタビューを開始しました。)

**多方面でご活躍のご様子、今の説明でも、その多忙ぶりはよく理解できるのですが、具体的に、どんな行動パターンとなっていますか？ 差支えない範囲で具体的にお話しただけるとありがたいのですが？**

中津川工業高等学校で週 5 日、常勤講師として勤務しています。合間に、足利大学へ非常勤講師として、出向いています。その他、出前講座やイベント参加などを行っています。そして、最近は、「ラジオの研究」を始めたところ です。

**ラジオとは、どういうことですか？**

“永く、使い続ける”ということです。昭和世代の我が国の製品の良さを、改めて、研究し、使い続けるための課題などが見つかればよいのではと考えているし、環境に関係する新たな研究テーマとして論文発表にもつなげたい。

**論文発表といえば、今日、お邪魔するキッカケとなった「人生は化学反応・化学変化」は、凡人の小生には理解しがたい面もありますが、どんな、いきさつで出版に至ったのですか？**

今までの教職経験、気象観測、エコハウスの実践研究などを通じて、その時々、出会った多くの人たちの助けにより、自分自身が成長したことをまとめてみました。そして、出版社数社に打診し、うち一社が応じてくれました。

出版社を通じるということは、著者にとっては、良いことが多いと思います。例えば、マネジメント部が積極的にサポートしてくれ、出版本も全国の図書館等に配本され、少なくとも、5 年程度はその需要が続くとのこと。その中でも、東京の反応はさすがにすごいと感じました。

### 良い出会いがあったということですが、足利大学との縁はどんなことだったのですか？

時々、書いていた論文の一節を、学長が目にとめ、「遊びに来ないか？」と誘われて、セミナーの一コマを与えられたのが、2011年の11月でした。

論文を書くという習いも、土岐市の核融合科学研究所の先生から助言を得たことによります。



丸山さんの自宅である恵那エネルギー環境研究所  
恵那ライブ気象台

### ところで、出前講座を実施する時間はありますか？

やっていますよ。昨年は恵那市内で10コマ、土岐市内で2コマなど延べ15回以上の講座を行いました。

社会人相手の公民館講座が主で、文化センター等からオファーを受け、主催者側と私の企画案を融合化させ、要望に合うようにプランニングし、実施するというパターンですが、長続きするためには、テーマがひとつでないこと、多方面に展開すること等心がけています。また、「コロナ禍」の折には、YouTube「食品の秘密」にもトライしました。



恵那エネルギー環境研究所内部  
計測・分析機器

### 環境カウンセラーを意識した活動は？

活動の都度、資料には「環境カウンセラー」である旨、必ず、表示しています。そして、出前講座では、特に、意識しますね。年度末に「活動報告書」を記載するときは・・・（笑い）

最後に、今年度、総会で承認をいただき、「環境カウンセラー全国連合会への再加入」を果たしましたが、その議論の過程で、「環境カウンセラーの認知度が低い」ことが、全国レベルでも、地域レベルでも、また、カウンセラー自身の間でも、問題が明らかになってきています。全国区で活動されている立場から、「社会に認知してもらおう」ため、何が必要と思われますか？

私自身は、これからも楽しく、生き活きと活動していきたい。そして、「何かやっていないと・・・」という気持ちでいます。各種活動を Web、SNS、配布物、各種発表の場などで啓発していきたいと思います。インターネット（PC、スマホなどで見られるサイト）での情報サイトは、次のようになっています。

- ・恵那エネルギー環境研究所：<https://sites.google.com/view/ena-eco-jp/>
- ・恵那ライブ気象台：<http://ena-eco.jp/VWS/wx.htm>
- ・「人生は化学反応・化学変化」図書紹介：検索⇒ 幻冬舎ゴールドライフオンライン 丸山晴男

本日は、ご多用中、長時間お付き合いいただき、ありがとうございました。



サクライソウ

● 編集後記

前号の発行が、期日ギリギリでやっとといった状況でしたが、今号はそれに劣らず、2か月遅れとなってしまいました。ご迷惑をおかけし、申し訳ありません。

それに引き換え、自然界は着実な歩みを続けていますね。我が家の近くに国天然記念物の「サクライソウ」が自生しており、小生がこの地に居を構えた40数年前から、「サクライソウ自生地」の看板は目にしつつ、対面できたのは、昨年でしたが、今年もごらんのような可憐な姿を現してくれ、自然界のダイナミズムに頭が下がるのみです。

今号も、新企画の「会員訪問」では丸山晴男さんに、ご協力いただきました。ありがとうございました。次号以降も、会員各位の投稿、インタビューなどをお願い致しますが、その折には、積極的にご協力いただきますよう、お願い致します。

担当：梶田 弘一

発行：特定非営利活動法人 岐阜環境カウンセラー協議会

〒507-0001 岐阜県多治見市小名田町小滝5番地の301（梶田・宅）

TEL/FAX 0572-88-8037

E-mail : [gifu-ec@ob.aitai.ne.jp](mailto:gifu-ec@ob.aitai.ne.jp)

URL : <http://www.gifu-ec.jp>

発行責任者：梶田 弘一